

# 地域と 大学

## 県立広島大三原キャンパス10年 ④

生後5カ月までの乳児の動きを観察し、脳性まひなどの脳障害の有無や程度を判断する新生児神経機能評価法は、医師や理学療法士たちが目視で行う。イタリアなど盛んなこの方法を活用しやすくするために、ビデオ映像から自動分析できるシステムの開発に、県立広島大保健福祉学部(三原市)の島谷康司准教授(理学療法学)が携わっている。

省が新学術領域研究の補助金を出している、東京大大学院を中心とする「構成的発達科学」の研究の一環にも位置付けられた。

の早期発見はより早い。看護学科の研究者と力とメーカーなどが、血液やリンパの流れを促進し、足のむくみを軽減する効果があるという靴下を製品化。県が

産官学で進める「医工連携」の取り組みとして注目されている。

国から大学への運営費交付金が減少傾向の中、県立広島大は、研究力の向上の指針の一つに国の科学研究費補助金の採択件数を挙げ

# 高い専門性開発支える

## 最先端の研究

同評価法の従来の目視による観察は、知識や経験の差により、結論に幅が生じる課題もあった。新システムは、乳児の動きをベッドの上からビデオカメラで定期的に撮影。映像の動きをコンピュータで解析して特徴を抽出し、評価する。

。同大の14年度の採択件数は13年度比14件増の105件。中四国、九州の公立大では8年連続で最多という。うち4割近い41件を保健福祉学部が占めている。

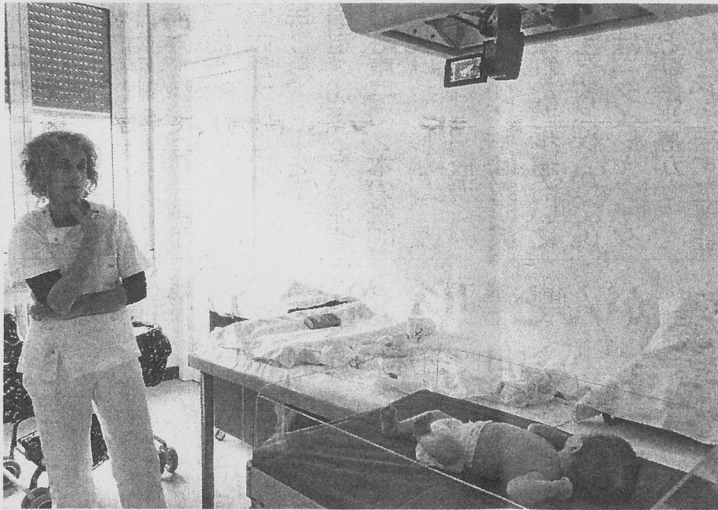
### 競争意識高く

同学部の小野武也学部長によると、3大学が統合され、現在の3キャンパス1大学になったことで、学内の競争意識も高まり、教員の姿勢もより積極的になったという。小野学部長は「学部の5学科の専門性を生かし、共同研究などでさらに幅を広げ質を高めたい」と強調する。

要の部分担う

研究は、広島大大学院の辻敏夫教授を中心に、イタリアや国内の病院などが入るグループで取り組む。島谷准教授は要となる映像分析の手法の確立を担っている。研究は2013年度から、文部科学

や家庭で使える。障害



イタリアの病院で島谷准教授が取り組んだ研究の様子。寝ている乳児を上からビデオカメラで撮影している(2013年2月、島谷准教授提供)